

妙昌寺 東松山市 所在

青鳥(おどり)山妙昌寺といい、既報告の青鳥城の付近にあったものがこの地に移転したと伝えられる





埼玉県考古資料の板石塔婆、東松山市考古資料の瓦塔、東松山市指定彫刻の祖師像がある

















旧仮本堂の向拝の鬼瓦という



鐘楼堂跡とある



こんなものもあった



正面は祖師堂









西條八十とある



祖師堂



ここに東松山市考古資料の瓦塔、東松山市指定彫刻の祖師像があるのだが見ることができなかった



東松山市考古資料の瓦塔



インターネットより

東松山市指定彫刻の祖師像



インターネットより













日蓮供養板石塔婆

昭和四十年三月十六日県指定有形文化財

この板石塔婆は当時の日願が貞和二年（一三四六年）、宗祖日蓮上人の六十五年忌に二十六人の結衆と共に、上人の供養のため建立したものです。高さ一六〇センチ、幅四〇センチの塔婆で、日蓮宗独特の文字になる前の謹厳な特徴のある文字で書かれています。当地における日蓮宗の普及等を知る歴史資料としても重要なものです。

銘文

十方仏土中 右志者為日蓮大

南無多宝如来（蓮座）唯一乘法 聖人六十五年忌

南無妙法蓮華經（蓮座）貞和二年丙戌十月十三日

南無釈迦牟尼仏（蓮座）無二亦無三 辰相当僧日願

除仏方便説 一結衆廿六人敬白

妙昌寺板石塔婆

昭和三十八年二月八日市指定有形文化財

この寺には日蓮宗関係の板石塔婆が十数基あります。その中で、文明十三年（一四八一年）建立のものは、高さ一三四センチ、幅四一センチあり、典型的な日蓮宗の板石塔婆で、独特のひげ文字で、お曼荼羅が刻んであります。守り本尊である鬼子母神と十羅刹女も刻まれています。このように鬼子母神まで刻んだものは日蓮宗の題目板碑の中では珍しいものです。

日蓮上人祖師像

昭和五十五年一月十日市指定有形文化財

妙昌寺は日蓮上人ゆかりの寺で、かつては青島城の付近にあったと伝えられ、山号も青島山といい、開山は日蓮上人の高弟日仙で弘安四年（一二八一年）の創草と当寺の縁起にあります。

像高六八、五センチの檜材寄木造りで、お姿は紫衣に袈さをまとい、左手首に念珠を、両手で経巻を持ち、骨座の上に坐しています。像本体にも法衣や袈さが刻まれています。室町期のもものと推定され、県内では等身丈のものとしては数少なく貴重なものです。

これらの他に、当寺には貴重な「瓦塔」（昭和三十四年五月十五日市指定）もあります。

昭和五十六年三月

東松山市教育委員会

文化財を大切にしましょう

埼玉県考古資料他の板石塔婆群



前列中央が日蓮供養 題目板碑/県指定文化財/南北朝時代前期 貞和二年 1346年/緑泥片岩



日蓮供養 題目板碑



前列右手の題目曼荼羅板碑(市指定文化財)口



前列左手の板碑









南無妙法蓮華經
法華經
南無妙法蓮華經
法華經

妙法蓮華經
法華經

奉
贈
蒲
香
白
四
千
次



南無妙法蓮華經未^計詳^詳歴^歴南無高祖目蓮大菩薩御報恩謝徳夫当山

春陽滿





堂山稻荷縁起

法徳日也尊は、神通のお祖師さまとして崇められる日蓮大聖人像（木三昧中木）をお祀りする堂山に鎮座せられる法軍経擁護のご守護神である。
古来、日本は「扶桑」とも称し、日の出の地を表わし、太陽と桑（春・朝）との関係が深く、天照太神がはた織りをしたという伝説にも関係する。

法徳日也尊は、神戸耕地の肥沃な大地に恵みをもたらす日天（太陽）の神であることはむろんのこと、歴代上人の勸誘札から推察するに、當地はかつて養蚕が盛んなりし時代もあり、養蚕の守護神として地域の信仰を集めた時代もあったと考えられる。

惟るに、堂山は文永八年（一一七二）十月、日蓮大聖人が香島城下にお立寄りになり、弘安四年（一一八二）に高弟日仙聖人を開山導師に遣わされ、城主前郡司大夫藤原利常公入道齋心居士を開基として建立された寺院である。その源は宗祖による鎌倉幕府への「立正安国論」奏進に求められよう。平成二十一年は「立正安国論」奏進より数えること七百五十年の佳節にあたり、ご尊像をご奉安せし堂山を整備するは日蓮大聖人の遺徳を讃え、霊跡を輝しめる浄業と心得発願し、法徳日也尊身居建立の名のもとに一結の衆と共に浄業を推し進めた。

身居に掲げる神号額の文字は、日蓮大聖人御真筆「立正安国論」より転写させて頂き、数多の人が當地に参りお題目に結縁し立正安国・四海静謐を実現せられんことを希う。

平成二十二年 秋 釋尊降誕の聖日

四十二世

傳燈

顯教院日紙
請す

堂山稻荷



元へ帰る



参道入口付近の石造物



















妙昌寺から浄空院への途中、都幾川を渡る



東松山ふるさと自然のみち

都幾川・歴史道コース

コース距離 21.0km
1日コース



このコースは、水辺にすむ生きものや歴史、文学とふれあいながら、水のたいせつさを考えることがテーマです。歴史的なものには、箭弓稲荷神社、俱利伽羅不動尊、青鳥城跡の虎御石などがあります。小説「天の囀」が作られた唐子付近は文学散歩のコースになっています。いろいろな自然環境の中でも水辺は、最も多くの生きものが集まる所です。いくつものため池とゆったりと流れる都幾川で、水とのふれあいを楽しみながら、水と人のかわりを考えましょう。

東松山市・埼玉県
環境庁

水の循環



都幾川歴史道コース 7



都幾川の水の循環

都幾川の源流は、秩父山地の東側に連なる低山帯の大野峠下、標高約700mにあります。山間をいっしょに流れ下った川は、平野に顔を出すと、大きく曲がりくねります。くねくねと東松山市を流れた川は、まっすぐに河川改修された鶴辺川に流れこみ、やがて秩父山地を源流とする荒川に合流して東京湾に注ぎます。

雨や雪となって地上に降った水は、流れ下りながら次々に水田をうるおし、あらゆるものの生命を育んでやがて海に注ぎます。蒸発や地上から、水は太陽熱によって蒸発し、雲となり、再び雨や雪となって地上にもどってくるのです。

このような水の大循環の中で、私たちは水をいわば借りて使っているようなものです。人体の65%は水です。家庭でも工場でも、発電所でも水を使います。私たちにとって、水はなくてはならないものです。

★ 水はたいせつに使って、きれいに返すようにしたいものです。

東松山市・埼玉県
環境庁





参考ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/SilkRoad/7460/saitama-higasimatuyama-myousyouii.html>

<http://www.geocities.co.jp/SilkRoad/7460/saitama-higasimatuyama-myousyouji-2.html>



